

警告

適用対象 (患者)

- 本品の使用前には添付文書を熟読すること。
- 医師もしくは医師の指示を受けた専門の医療従事者は患者に適切な指導を行うこと。
- 過度な呼気陽圧は悪影響を及ぼす可能性がある。特に、肺差圧の増加に過敏な患者に 20cmH₂O 以上の呼気圧は添付文書の〈不具合・有害事象〉の項の有害事象を引き起こす可能性がある。
- 各患者に適切な陽圧設定の選択は、専門の医療従事者が判断すること [患者の呼気流量によって適切な呼気抵抗に設定されなかった場合、振動型呼気陽圧 (PEP) 療法の治療目標を達成できなかつたり、添付文書の〈不具合・有害事象〉の項の有害事象を引き起こす可能性があるため]。

禁忌・禁止

使用方法

- 本品は個人の使用に限り、複数の患者に使用しないこと。

使用目的

本品は、患者の気道へ呼気陽圧の振動刺激を与え、排痰を促進して換気を改善するために用いる。

〈交換時期〉

使用頻度にもよりますが、推奨する洗浄方法に従い、使用開始日から 6ヶ月を目処に交換してください。

洗浄方法

- 中性洗剤 (液体食器用洗剤等)
分解した本体とマウスピースを温かい洗浄剤溶液に浸けて、目に見える汚れを落とします。約 3.8L の水に 30mL の液体洗浄剤を混ぜた溶液を使います。精製水で十分にすすぎ、自然乾燥させます。
- 煮沸消毒 ※ネプライザポートキャップ除く
1日2回まで100℃ の熱湯で5分間煮沸できます。本品金属部品を石灰化させないように、ミネラルを多く含む水道水よりも蒸留水又は精製水の使用を推奨します。
- アルコール消毒 ※ネプライザポートキャップ除く
70%のアルコールで、1日2回、5分間浸漬します。その後、精製水で洗い流します。

医師記入欄

患者名	
連絡先	
練習回数	回/セット
	セット/日

排痰補助器具 振動型・呼気陽圧 (PEP) 療法器具

アカペラ デュエット

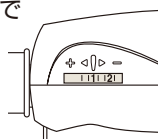
患者様用 簡易版使用説明書



本品の使用前には添付文書を熟読すること。

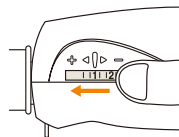
初期設定

- ① アカペラを初めて使用する際は、呼気陽圧の調節ダイヤルを振動抵抗の最低値である「1」に設定します。



- ② 本品が振動した状態で、患者が呼気を3～4秒間続けられるように調節ダイヤルを設定します。

- 患者が3～4秒間呼気を維持できない場合、調節ダイヤルを+側に回して呼気抵抗を増やすように調節します。
- 呼気抵抗を増やすと、患者の呼気流量は低下し、呼気時間を延ばすことができます。



- ③ 吸気：呼気（時間）比が1：3～1：4程度になるように呼気抵抗を調節します。

使用方法



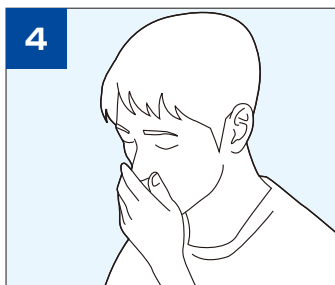
楽な姿勢を保ち、息を吐くときに、呼気が漏れない程度にマウスピースをくわえます。ゆっくりと深く息を吸い込みます。通常の呼吸より大きく息を吸い込みますが、肺いっぱいまでは吸い込まないでください。



一方向吸気弁なので、くわえたままの状態でも呼吸できます。
息止め
息を吸い込んだ後2～3秒息を止めます。



無理をしない程度に、アカペラを通して大きく息を吐きます。
呼気は吸気よりも約3～4倍の時間をかけて吐き出します。



医師の指示に従い、呼気陽圧（PEP）療法にて10～20回程度呼吸をします。マウスピース又はマスク（別売）を外し、2～3回咳ばらい（ハフィング）を行い、分泌物を吐き出します。

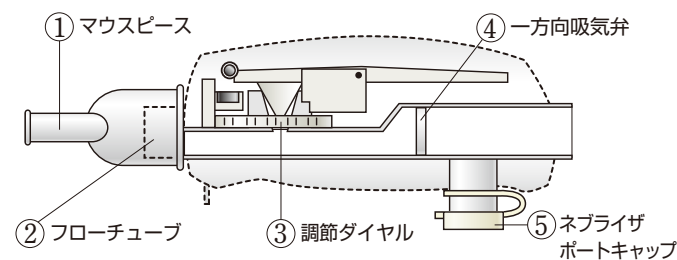
アカペラを使いPEP療法を10～20回繰り返してから、咳ばらい（ハフィング）を行います。そのサイクルをPEP療法1セットとし、4～6回繰り返してください。所要時間が約10～20分間のセットを必要に応じて1日1～4回行ってください。

振動型・呼気陽圧（V・PEP）療法とは、振動法と呼気陽圧療法を組み合わせた治療法で、患者自身の呼気をその器具へ吹き込むことで呼気に振動を伴った陽圧を生じさせます。

アカペラは、慢性閉塞性肺疾患（COPD）や喘息など分泌物が多い疾患で、エアトラッピングが生じやすく痰の貯留しやすい症例に対して排痰を促進し、換気を改善します。



システム内容

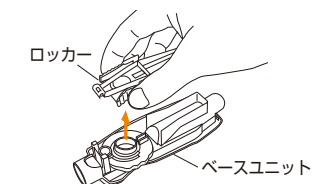
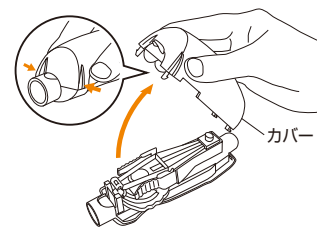


品番	品名
27-9000	アカペラ デュエット SVN セット
27-9001	アカペラ デュエット

※ネプライザ付のSVNセットを使用する場合は、添付文書を確認すること。

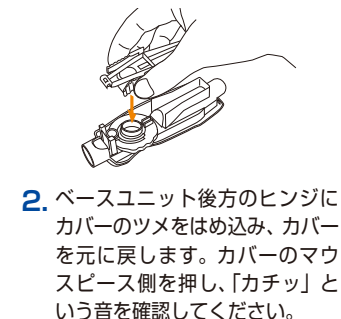
分解方法

1. 本体よりマウスピース、又はマスク（別売）を外します。
2. カバーのマウスピース側（ダイヤルの手前部分）を人差し指と親指で押してからカバーを持ち上げます。
3. ロッカー側面の溝の付いた部分の人差し指と親指でつかんで、ロッカーを取り外します。

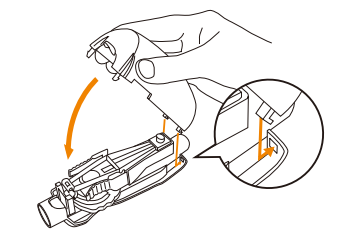


組み立て方法

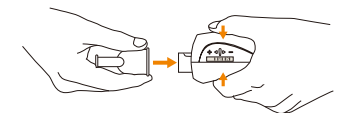
1. ロッカーをベースユニットに慎重にはめ込み、確実に固定されていることを確認します。



2. ベースユニット後方のヒンジにカバーのツメをはめ込み、カバーを元に戻します。カバーのマウスピース側を押し、「カチッ」という音を確認してください。



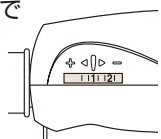
3. 本品本体上下を軽く押しながら、本体前部（調節ダイヤル側）にマウスピースをはめ込みます。



4. ネプライザポートに付いているキャップをベースユニットから外します。

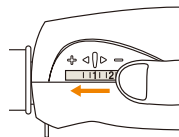
初期設定

- ① アカペラを初めて使用する際は、呼気陽圧の調節ダイヤルを振動抵抗の最低値である「1」に設定します。



- ② 本品が振動した状態で、患者が呼気を3～4秒間続けられるように調節ダイヤルを設定します。

- 患者が3～4秒間呼気を維持できない場合、調節ダイヤルを+側に回して呼気抵抗を増やすように調節します。
- 呼気抵抗を増やすと、患者の呼気流量は低下し、呼気時間を延ばすことができます。



- ③ 吸気：呼気（時間）比が1：3～1：4程度になるように呼気抵抗を調節します。

使用方法



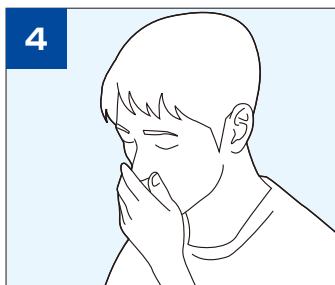
楽な姿勢を保ち、息を吐くときに、呼気が漏れない程度にマウスピースをくわえます。ゆっくりと深く息を吸い込みます。通常の呼吸より大きく息を吸い込みますが、肺いっぱいまでは吸い込まないでください。



一方向吸気弁なので、くわえたままの状態でも呼吸できます。
息止め
息を吸い込んだ後2～3秒息を止めます。



無理をしない程度に、アカペラを通して大きく息を吐きます。
呼気は吸気よりも約3～4倍の時間をかけて吐き出します。



医師の指示に従い、呼気陽圧（PEP）療法にて10～20回程度呼吸をします。マウスピース又はマスク（別売）を外し、2～3回咳ばらい（ハフィング）を行い、分泌物を吐き出します。

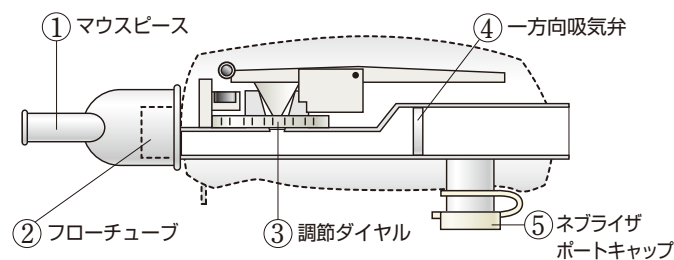
アカペラを使いPEP療法を10～20回繰り返してから、咳ばらい（ハフィング）を行います。そのサイクルをPEP療法1セットとし、4～6回繰り返してください。所要時間が約10～20分間のセットを必要に応じて1日1～4回行ってください。

振動型・呼気陽圧（V・PEP）療法とは、振動法と呼気陽圧療法を組み合わせた治療法で、患者自身の呼気をその器具へ吹き込むことで呼気に振動を伴った陽圧を生じさせます。

アカペラは、慢性閉塞性肺疾患（COPD）や喘息など分泌物が多い疾患で、エアトラッピングが生じやすく痰の貯留しやすい症例に対して排痰を促進し、換気を改善します。



システム内容

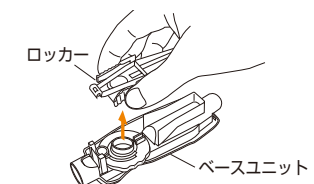
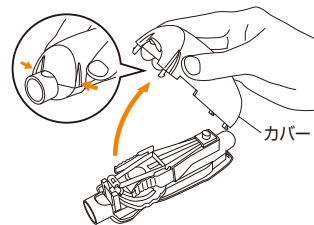


品番	品名
27-9000	アカペラ デュエット SVN セット
27-9001	アカペラ デュエット

※ネプライザ付のSVNセットを使用する場合は、添付文書を確認すること。

分解方法

1. 本体よりマウスピース、又はマスク（別売）を外します。
2. カバーのマウスピース側（ダイヤルの手前部分）を人差し指と親指で押してからカバーを持ち上げます。
3. ロッカー側面の溝の付いた部分の人差し指と親指でつかんで、ロッカーを取り外します。



組み立て方法

1. ロッカーをベースユニットに慎重にはめ込み、確実に固定されていることを確認します。
2. ベースユニット後方のヒンジにカバーのツメをはめ込み、カバーを元に戻します。カバーのマウスピース側を押し、「カチッ」という音を確認してください。
3. 本品本体上下を軽く押しながら、本体前部（調節ダイヤル側）にマウスピースをはめ込みます。
4. ネプライザポートに付いているキャップをベースユニットから外します。

